

**愛・地球博 河合隼雄連続対談**  
**「知の対話」 ～日本文化はどこへ行くのか～**  
**開催要項**

日本における臨床心理学の第一人者であり、文化庁長官である河合隼雄氏。愛・地球博の開催にあわせ、日本人のこころと文化に精通した河合氏と、第一線で活躍する女性5人たちの「知の対話」をお送りします。会場は日本庭園内の茶室「香流亭」。河合隼雄氏が席主となり、さまざまな年代、分野で世界を舞台に活躍する女性たちを客として、一対一でじっくりと語りあう、2005年の日本における新たな「知の創造」をめざす企画です。かつて武士たちが天下国家を語り合ったお茶室という空間。そこから21世紀、自らの才能をかけて世界に挑戦し続けるヒロインたちが、自分、日本、世界に向けて熱いメッセージを発信します。万博会場内随一の閑静な空間で行われる贅沢な対談です。

**【日時・ゲスト】**

|                                |            |
|--------------------------------|------------|
| 5月25日(水) 塩野七生 (作家)             | * 呈茶：表千家   |
| 6月 2日(木) 五嶋みどり (バイオリニスト)       | * 呈茶：宗徧流   |
| 6月 9日(木) 藤ジニー (山形・銀山温泉 旅館藤屋女将) | * 呈茶：茶道松尾流 |
| 6月15日(水) 中山恭子 (国連改革欧州諸国担当大使)   | * 呈茶：裏千家   |
| 6月22日(水) 向井千秋 (JAXA宇宙飛行士)      | * 呈茶：裏千家   |

**【ホスト】** 河合隼雄 (臨床心理学者・文化庁長官) 5日間とも出演

**【会場】** 愛・地球博長久手会場 茶室「香流亭」(日本庭園内)

**【当日のスケジュール】(予定)**

|         |         |                    |
|---------|---------|--------------------|
| 午後2時    | 開場      | 聴講者への呈茶開始          |
| 午後3時    | 開演・対談開始 | (冒頭 ホスト・ゲストにお点前あり) |
| 午後4時45分 | 終演・対談終了 |                    |

**【主催】** 財団法人2005年日本国際博覧会協会、中日新聞社

**【協力】** 表千家、宗徧流、茶道松尾流、裏千家

\* 各対談については中日新聞紙面で抄録掲載予定

～聴講者募集方法～

【聴講人数】 定員30人

【聴講者募集】はがきによる募集（抽選にて決定）

官製はがきに 希望日・ゲスト 郵便番号 住所 氏名 電話番号  
2人の場合は同行者の氏名を書き、5月8日までに  
〒460-8799  
名古屋中郵便局留「知の対話」係 宛 に応募

1 希望日につき二人まで官製はがき1枚で応募。  
応募多数の場合は抽選。  
当選は氏名記載のチケットの発送をもって発表。  
当日券は発行しない。  
聴講無料だが、当日の入場は万博入場券が必要。

【募集期間】 5月8日（日）締切り（必着）

【当選通知】 当選者には5月16日（月）までに氏名記載のチケットを送付。  
（落選者にはとくに通知しません）

## 出演者 略歴

### 【ホスト】

#### 河合隼雄（文化庁長官）

1928（昭和 3）年兵庫県生まれ。臨床心理学者。京都大学名誉教授。京都大学教育学博士。日本臨床心理学会理事長。現在、文化庁長官。京都大学理学部卒業後、アメリカ留学を経て、スイス・チューリッヒのユング研究所で日本人として初めてユング派精神分析家の資格を取得。日本におけるユング分析心理学の理解と実践に貢献。また、神話や昔話（ファンタジー）の研究も行い、海外の神話との比較研究、日本文化論等を臨床心理学者としての立場から国内外の講演会等を通じて多く発表している。故小淵首相の私的諮問機関「21世紀日本の構想」懇談会の座長、教育改革国民会議委員、文部科学顧問を務めるなど、日本の政治、教育に幅広く貢献している。1995年紫綬褒章授賞、2000年文化功労賞顕彰。

### 【ゲスト】

#### 塩野七生（作家）

1937（昭和 12）年東京都生まれ。1962年学習院大学文学部哲学科卒業。1963年～68年にかけてイタリアに遊学。1968年より執筆活動を始め、処女作「ルネサンスの女たち」を発表。初めての書き下ろし長編「チェザーレ・ボルジアあるいは優雅なる冷酷」で、1970年度毎日出版文化賞を受賞。この年よりイタリア在住。1982年「海の都の物語」で、サントリー学芸賞を受賞。翌83年、それまでの作品活動に対して菊池寛賞を受賞。1988年「我が友マキアヴェッリ」より女流文学賞を受賞。1992年より、ローマ帝国興亡の1000年を描く「ローマ人の物語」の執筆に取り掛かる。1992年から2006年まで一年一冊、15年をかけて全巻刊行の予定。2005年は14年目にあたる。第1作「ローマ人の物語Ⅰ」により、新潮学芸賞を受賞。1999年に司馬遼太郎賞を受賞。2002年3月5日に、これまでの多数の著作を通じてイタリアの歴史と文化を日本に紹介した功績で、イタリア政府から国家功労賞を受賞され、勲章を授与される。ローマ在住。

#### 五嶋みどり（バイオリニスト）

1971（昭和 46）年大阪府生まれ。1982年ニューヨーク・フィルと共演してデビュー、1990年にはカーネギー・ホールでもリサイタル・デビューを飾るなど、10代にして既に名だたるバイオリン奏者の一人としての地位を固めた。毎年ヨーロッパ、北米、日本、アジアの各地で演奏活動を行い、リサイタルとオーケストラ共演を半々に、年間約70回の演奏活動を行う一方、近年は室内楽にも意欲的に取り組んでいる。ここ数年でも、ベルリン・フィル、パリ管弦楽団、ニューヨーク・フィル、フィラデルフィア管弦楽団、ロンドン交響楽団など世界のほとんどのメジャーオーケストラと共演。1992年にはTHE MIDORI FOUNDATION（非営利団体みどり教育財団）をアメリカで設立、後に米国ではMidori&Friends、日本ではNPO ミュージック・シェアリングとして子供たちを対象とした活動を行う。2001年には米国の小地域の一般を対象に無料コンサートを実施する、PIP（非営利団体、パートナーズ・イン・パフォーマンス）、2003年米国でURP（ユニバーシテ

ィー・レジデンス・プログラム)を設立し、大学に所属する職員、同校の学生を対象に、音楽を軸として自己を社会にアクセスする意欲を高め、それを試行実現に向けた活動を始めた。現在ニューヨーク・マンハッタン在住。ニューヨーク大学においては心理学とジェンダー研究の学士号を取得し、現在は修士課程に在籍。また、マンハッタン音楽学校で教鞭をとるほか、2004年より南カリフォルニア大学のハイフェッツ記念講座の教授も兼任する。公式ホームページアドレスは [www.gotomidori.com](http://www.gotomidori.com)

### 藤ジニー (山形・銀山温泉 旅館藤屋女将)

1966(昭和41)年、米国サンフランシスコ生まれ。公共広告機構の国際化キャンペーンテレビCM「ニッポン人には、日本が足りない」で一躍有名になった女将。ユタ州ソルトレイクシティに育ち、オレゴン州リンフィールド大学卒。1986年、交換留学生として神奈川県に5ヵ月間留学。医師を志すが、1988年、英語の派遣指導教師助手として山形赴任中に、350年続く銀山温泉の老舗旅館・藤屋の七代目若旦那と出会い、1991年に結婚。トイレ掃除から始めた猛烈修業の末、若女将になる。明るい人柄とチャーミングな和服姿で銀山温泉の名物女将として、いまや現地ツアーができるほど人気が高まっている。女将業のかたわらテレビ・雑誌の取材や講演などで活躍。

### 中山恭子 (国連改革欧州諸国担当大使)

1940(昭和15)年東京都生まれ。外務省を経て昭和41年4月大蔵省入省。昭和50年6月国際通貨基金(ワシントン)に出向。大臣官房調査企画課、大臣官房企画官を経て、昭和62年7月東京税関成田税関支署長、平成元年6月理財局国有財産第二課長、平成3年6月四国財務局長、平成5年6月大臣官房参事官兼大臣官房審議官。税関支所長、課長、財務局長、審議官はいずれも「女性初」。平成5年9月に大蔵省退官後、国際交流基金常務理事、平成11年7月ウズベキスタン大使兼タジキスタン大使。平成14年9月内閣官房参与(北朝鮮拉致被害者家族支援担当)に任命され、同年10月15日には被害者5人を平壤に迎えに行く役目を担い、拉致問題の政府の「顔」として活躍。平成16年9月内閣官房参与辞任。平成17年4月から、国連改革欧州諸国担当大使および早稲田大学大学院アジア太平洋研究科の客員教授に就任。

### 向井千秋 (JAXA宇宙飛行士)

1952(昭和27)年群馬県館林市生まれ。医師、宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙飛行士。慶應義塾大学医学部卒業、博士号取得。心臓血管外科医として慶應義塾大学医学部外科学教室、済生会神奈川県病院などに勤務。1985(昭和60)年、宇宙開発事業団職員となり、毛利衛さん、土井隆雄さんとともに日本人初の宇宙飛行士(搭乗科学技術者)に選ばれる。1994(平成6)年7月、米航空宇宙局(NASA)のスペースシャトル・コロンビアに搭乗、約15日間でメダカやイモリを使った82種類の宇宙実験のほか、様々な宇宙医学の研究を行う。1998(平成10)年10月、スペースシャトル・ディスカバリーにジョン・グレン宇宙飛行士らとともに搭乗、日本人として初めて2度目の宇宙飛行をした。総理大臣顕彰、科学技術庁長官表彰、群馬県民栄誉賞、日本婦人科学者の会功労賞、東京女性財団賞、男女共同参画社会づくり功労者。2004年から国際宇宙大学(フランス・ストラスブール)客員教授。